昭和25年度
昭和26年度

氣　象　観　測

山　口　秀　男

~~内　藤　晴　夫~~
住　谷　勇

昭和 24 年中央氣象台より県営に移管され以來水産試驗場気象係として係員 2名を以て業務を担当している。玆には移管後における業務内容と今後の計画について述べる。

§1 業務の内容

(1)観測業務

10時一回の一般地上観測、沿岸海況観測臨時観測特殊現象観測を行ひ、併せて統計、整理を行ひ調査、研究の用に供する。

(2)豫報業務

海上豫報は沖合作業と最も重要なもので毎日一回乃至二回の天気図を作製し湊附近の天気、更に漁場の豫報の照會にも應じ、殊に河口附近の狀態を重視し出入適否の豫報に万全を期している。豫報内容は風向、風速、天氣、天気変化傾向、海面狀態等で水戸測候所と常時連絡をとつて發表している。陸上無線局を通じての漁船向け漁業気象も通信連絡の強化により機能を充分發揮しているものと信ずる。

(3)通信、連絡業務

水戸測候所――湊觀測所間の気象專用線により常時連絡を密にし、漁業氣象に充分なる態勢をとつている。

(4)民生協力業務

水産業界の発展により氣象の利用度もますます増大しつつあり、その内容を分けると

1. 氣象豫報の照會、問合せ
2. 気象資料の利用、調査の依頼
3. 気象計器の修理、補正購入斡旋
4. 気象観測の指導
5. 豫報理論、技術の指導

(5)調査研究業務

調査研究は漁業、海上の問題に對し重点的に実施しているのであるが早急に解明されなければならない問題が多い。

(6)災害防止

気象報、警報の発表に伴う通知連絡を緊密にして災害の未然防止に万全を期している。これがため氣象通知信号も計画中で早急に実施の運びとする様努力している。

§2. 今後の計画

主として調査、研究に重点を置き海上、漁業に關する問題の解明に努力したい。その對照としては

1. うねりの豫報について
2. 海況と氣象との關係について
3. 沖合作業と氣象との関係について
4. 水産加工と気象との関係について
5. 縣沿岸漁港の地形と気象との關係について
6. 其の他水産業に関する科学技術上の問題に於て氣象觀測所に期待されるものについて